

令和5年3月

「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」 お知らせ

生駒市教育委員会事務局

令和5年1月23日、市長が招集する総合教育会議を経て、教育委員会第1回定例会において、「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」、下記の方向性を決定しました。

教育の方向性



- (1) 第2次生駒市教育大綱に掲げる基本方針2「21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり」を基に、子どもにとって将来必要とされる資質・能力とは何か、学校と地域がどのような連携を進めていくのかなど、第3次生駒市教育大綱の策定も見据えて、目指す教育・未来の学校づくりについて学校、保護者、地域がビジョンを共有しながら進めていく。
- (2) 生駒市が推進する小中一貫教育のメリットを最大限に生かし、子どもたちにとって最適な教育機会を提供できるよう生駒南小学校、生駒南中学校の教育の方向性に関する検討委員会を設置し、広く様々な意見を取り入れながら検討していく。
- (3) 小学校から中学校への9年間を見通した6-3制をベースとする小中一貫教育を進める。

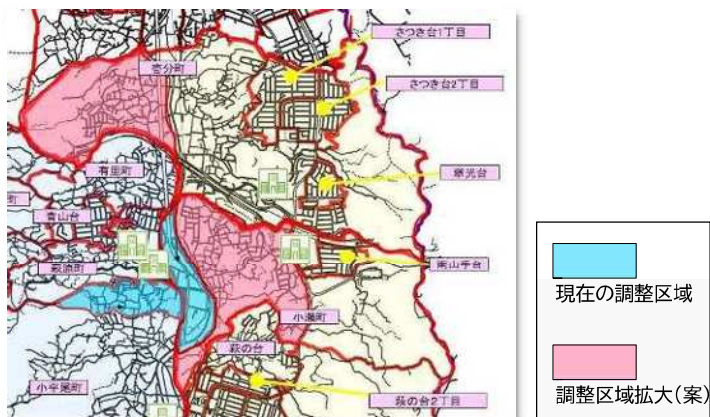
施設の方向性

- (1) 現在の生駒南小学校、生駒南中学校の敷地内において、子どもの主体的な学びの実現をはじめ、子どもの成長・発達にとって最適な教育環境を提供し、生駒市教育大綱の理念を具現化するために、本市が進めている小中一貫教育を一層推進できる施設一体型の学校施設を検討する。
- (2) 施設の建替に当たっては、学校教育と社会教育が融合した、多様性のある学びが実現できる環境を確保できる施設となるよう検討する。
- (3) 地域の方々や市民が学校施設を有効に活用し、活気のあるまちづくりに寄与する施設を整備していく。



校区の方向性

小瀬町、壱分西等隣接する地域の子どもたちが、生駒南中学校に通学することができるよう早期に調整区域を設定する。



裏面に続きます

「生駒南小・中学校の今後を考える会議」において、様々な意見が出されました。

- 小学校と中学校の施設一体型を検討するが、南小・中学校は公立の小学校、中学校であるため、教育内容に関しては、基本的に他の学校とは変わらない。全国どこから転校して来ても、どこへ転校しても、学習指導要領に決められた内容を教育していくことは同じ。
- 9年間を見通した小中一貫教育というものを推進していくが、小学校の6年間、中学校の3年間は変わらない。
- 小中一貫教育でも、教育カリキュラムが変わらないのであれば、学校を建てる上で効率的な建て方、一体型にならざるを得ないのではないか。小学校と中学校を別々で工事をしていくとなれば、子どもへの負担はものすごく大きくなる。
- 小学校と中学校、1つの学校に対して3年以上工事がかかり、合計6年以上の期間がかかる。施設一体型で工事することで、期間的にも短く済むメリットがある。
- 南小学校と南中学校で、小中一貫教育は既に始めている。子どもたちが持っている課題等も、共通するところがたくさんあるので、小学校と中学校で、様々なことを連携して進めていかなければならない。コミュニティ・スクールが始まったタイミングで学校運営協議会も小中合同にして、共同で運営している。
- 施設一体型に不安はあるが、果敢に挑戦して、全国的にモデル校となるような学校にすべき。

今後は、新たに検討委員会を設置し、学識経験者の意見も取り入れながら、より詳細な方向性を決めて行きます。

生駒市ホームページでご覧いただけます

生駒南小・中学校 今後



「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」全文
<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000031663.html>



「生駒南小・中学校の今後を考える会議」について
<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000030117.html>



【問い合わせ】
生駒市教育委員会事務局
教育指導課教育政策室
TEL:0743-74-1111